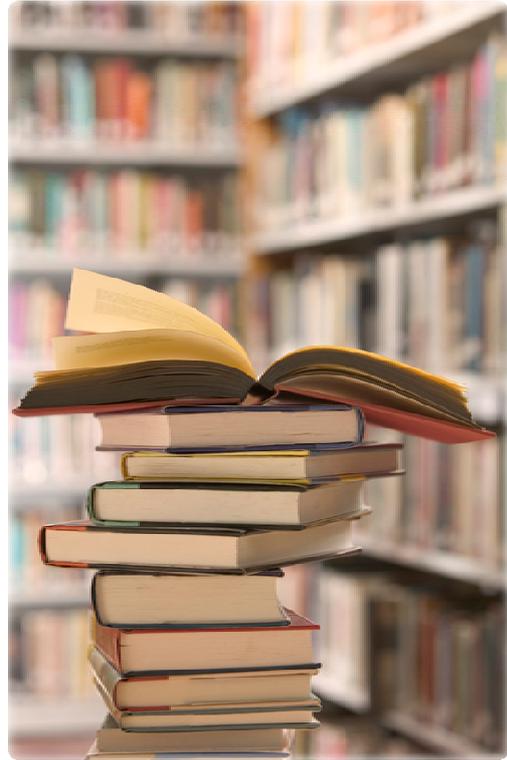


「知」の充実をめざして

箕面市 図書館 8 館構想 (たたき台)

現在 6 館ある図書館を 2 館増やして 8 館に。
毎年の書籍購入費を現在の 2 倍に。

市全域にきめ細やかな図書館サービスを提供するプロジェクト



箕面市施設再編特命チーム 図書館サブチーム

2011/3/7

もくじ

図書館を 2 館ふやします
構想の全体像
全館のサービスを充実します

構想の背景

- 1．現在の図書館は、6 館体制
- 2．課題：サービスの不均衡
- 3．箕面市の財政状況
- 4．課題を解決するために

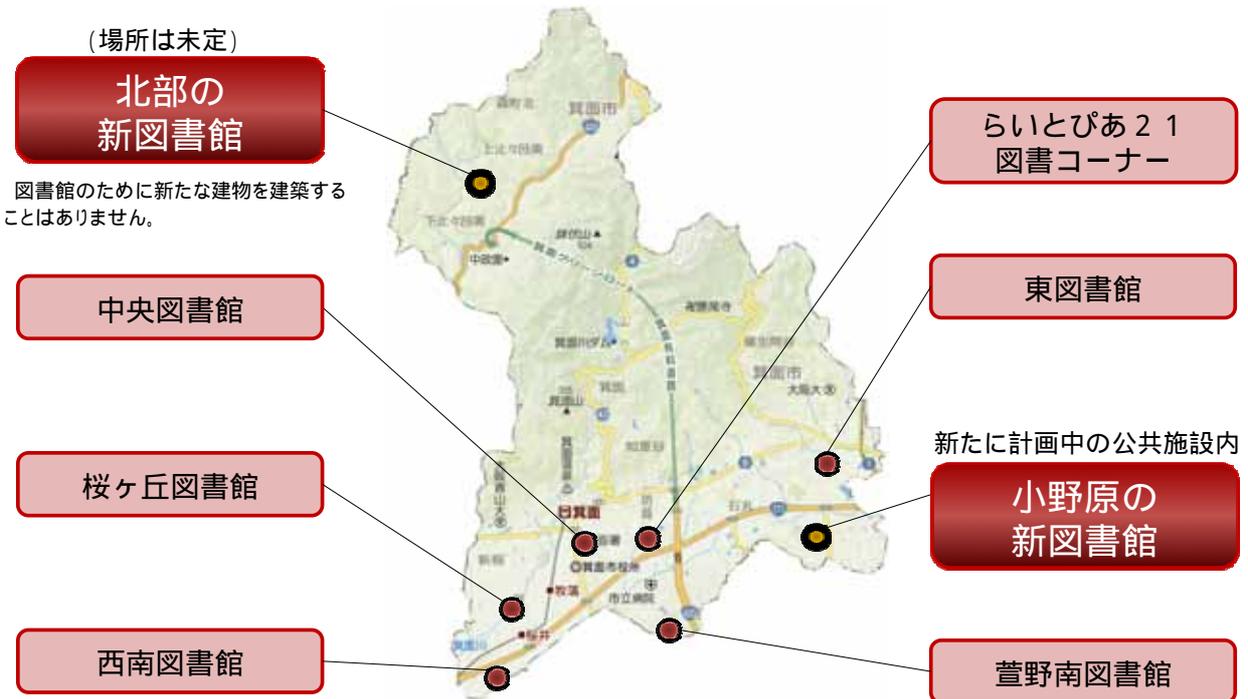


構想の具体的な内容

- 5．めざす図書館像
- 6．空白地域に図書館 2 館を新設
- 7．書籍購入費を倍増
- 8．蔵書の流動性を大幅アップ
- 9．インターネット接続環境の整備
- 10．貸出がよりスピーディに
- 11．人員体制の効率化
- 12．効果予測
- 13．検討の経過

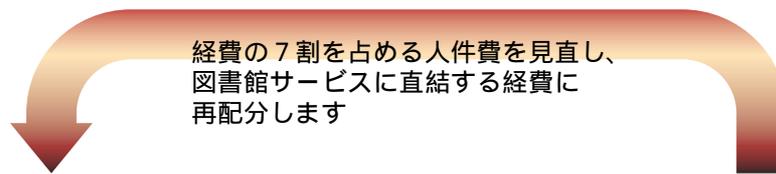
図書館を2館ふやします

現在、6館体制で展開している箕面市の図書館サービスを「8館体制」に拡充します。



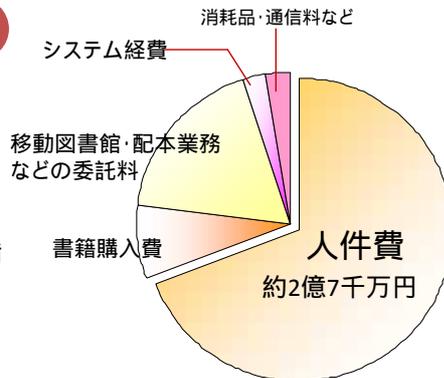
構想の全体像

図書館の運営にかかっている経費をこれ以上増やさずに、経費のあり方（配分の仕方）を見直すことにより、図書館サービスの充実を実現します。



サービスの充実

- 空白地域に図書館2館を新設
- 書籍購入費を2倍に
- 蔵書の流動性を大幅アップ
- インターネット接続環境の整備
- 簡単・便利な「セルフ貸出」
- 貸出処理のスピード化



人員体制の効率化

- バックオフィス作業の集約
- パートタイムスタッフの活用
- 組織構成・人員配置の変更
- ICタグ活用による省力化

ほとんどの図書館が他の公共施設に併設されているため、施設管理費は、本体の公共施設側で計上しています。(上のグラフには表れていません。)

全館のサービスを充実します

書籍購入費を倍増するなど、図書館サービスそのものにかかる経費をふやし、「本を読む」「調べる」機能を充実します。

毎年の書籍購入費を2倍に

1 本の鮮度を大幅に向上

毎年の書籍購入費を現在の2倍にし、新刊・人気図書の購入量をアップ、回転率の落ちた書籍は売り払い、蔵書の鮮度を保ちます



蔵書の流動性を大幅アップ

2 「本の大移動」

限られた蔵書をより多くの利用者に見ていただくため、年に一度、大幅な蔵書のローテーションを実施します

インターネット接続環境の整備

3 公衆無線LANの整備

図書館で蔵書や資料を調べながら、インターネットからも情報収集したいという利用者ニーズに応え、無線LAN拠点を整備します。

4 iPad、ネットブックなどの館内貸出

パソコンを持ち込めない利用者、または使い慣れていない利用者にもネットからの情報収集力を身につけてもらうため、インターネットに接続できる端末を館内貸出します。

貸出がよりスピーディに

5 簡単・便利なセルフ貸出

自分で貸出機に借りたい本を置くだけで、ピッと簡単に貸出処理が完了。

書名を人に見られずプライバシーも守られます。

6 貸出処理もスピーディー

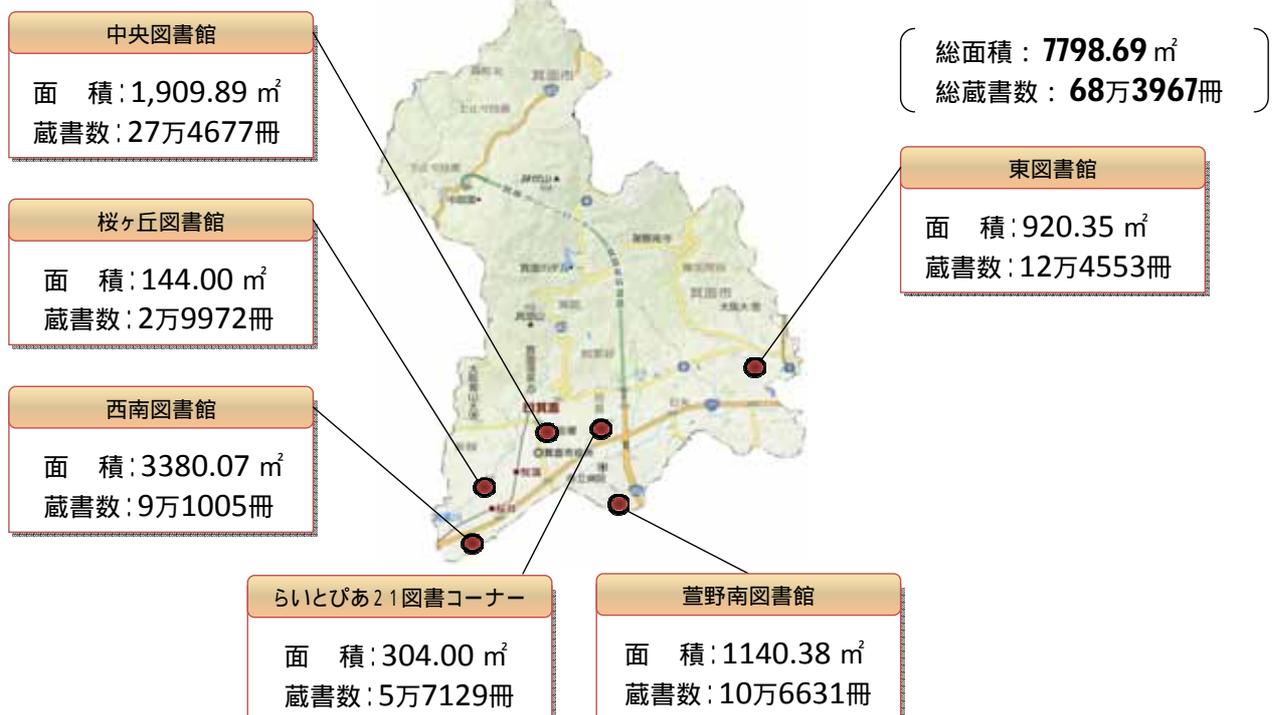
たくさん本を借りる場合も、読み取りは1度だけ。

より簡単に本を借り出せます。

構想の背景

1. 現在の図書館は、6館体制

現在箕面市では、図書館を「6館体制」で展開しています。
全国的にも、人口あたりの図書館数・蔵書数が多く、充実していると言えます。



「図書コーナー」は、館長職を置いていないだけで、サービスは他の図書館と同等です。

2. 課題：サービスの不均衡

それでもなお、図書館の配置には地理的な偏りがあり、現在は移動図書館の巡回で対応していますが、図書館サービスの供給量に不均衡がある状態です。

空白地域：北部

止々呂美支所2階の「ぶんたつた文庫」に小規模な図書機能を持つのみです。

森町の人口増、特に子育て世代の流入が顕著で、図書機能の充実が必要となっています。

空白地域：小野原

かねてより図書館がなく、地域の住民から図書機能を持った公共施設の設置について強い要望が出されています。

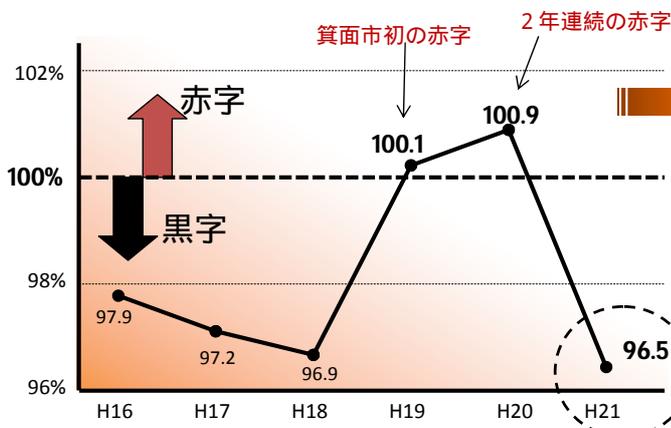
小野原西に新しいまちも出来、公共施設の整備と共に、図書館サービスの向上が求められています。



3. 箕面市の財政状況

一方、箕面市の財政状況は、「経常収支比率」が2年連続で100%を超えて、家計で言うなら赤字の状態に陥り、特に経常的な支出（毎年決まって出ていく費用）を抑える必要があります。

箕面市の決算の経常収支比率



このままの状況が続けば、いずれ基金（家計で言う貯金）が底をつき、市の財政が破綻してしまう状況でした

市民のみなさんのご理解とご協力のもと、「緊急プラン(素案)・ゼロ試算」による財政改革を進めています

最新の平成21年度決算では、なんとか黒字に収めることができましたが、まだまだ油断できない状況です

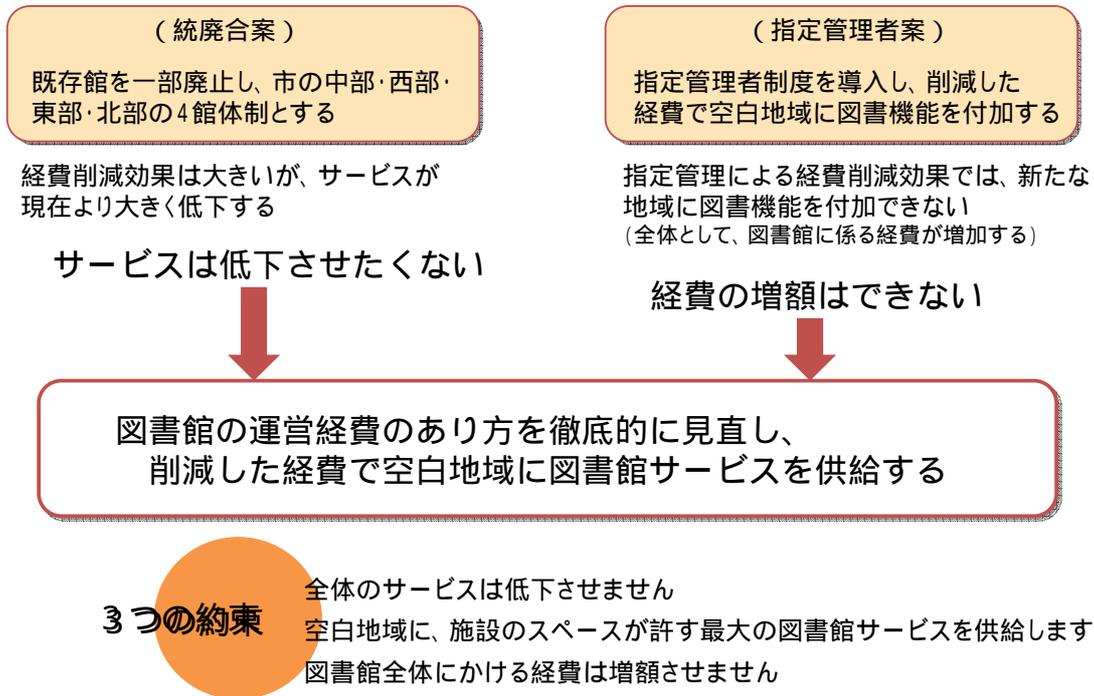
経常収支比率とは？

毎年度の決まった収入で、毎年度の支出が賅えているかどうかを表しており、家計に例えると、「毎月の給料で毎月の出費がやりくりできているか」ということです。「経常収支比率」が100%を超えると、市の財政は「赤字」です。

図書館の運営経費についても、館の統廃合、または指定管理者制度の導入などにより、年間5500万円の経費削減を提案しています。

4 . 課題を解決するために

苦しい財政状況の中で、図書館サービスの不均衡を解消していくために、ゼロ試案で提案した「館の統廃合」と「指定管理者制度」も検討しましたが、課題解決には及ばず、第3の道を選択することにしました。



構想の具体的な内容

5. めざす図書館像

図書館がめざしてきた「大切にしたい視点」を変えことなくサービスの不均衡を解消するため、徹底して効率化しつつ、サービス向上も実現する図書館像をめざします。

大切にしたい視点

これまで箕面市の図書館がめざしてきた、大切にしたい4つの視点は変えず、市全体としてサービスの質を維持・向上します。

1 対人サービスの充実

図書館のサービスは、人と人がつながるコミュニケーションが基本です。レファレンスや読書案内などの対人サービスは、より身近で親しみやすくをモットーにします。

3 高齢者・障害者への支援

高齢や障害で読書が困難な方など、あらゆる人の読書ニーズを、きめ細かなサービスによって、サポートします。

2 子育て支援

子どもの育ちのなかで、本と親しむ体験は、とても重要です。図書館が子どもの安心して過ごせる居場所になり、子どものそばにいつも本がある読書環境づくりを地域との連携で進めます。

4 市民協働

図書館サービスの一翼を担っていただいている市民やグループの皆さんと、一緒に地域に根付いた図書館づくりを進めます。

図書館のあるべき姿

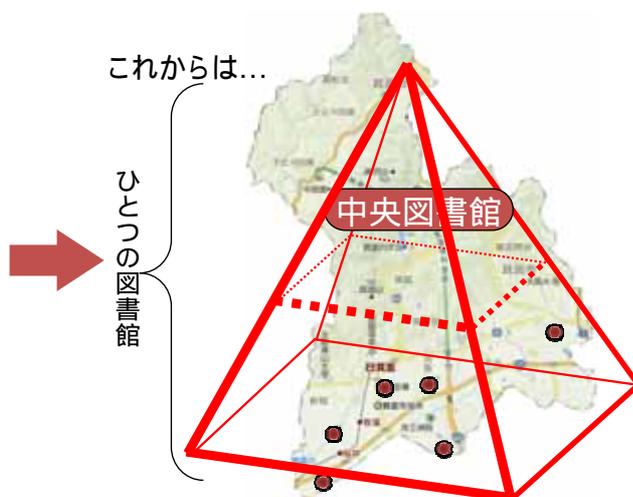
他市と比較すると、箕面市の図書館の特徴は、小規模の図書館が散在する「分散型」です。これまでの並列的な運営を改め、中央図書館を拠点として全館を一つの大きな図書館と捉える運営手法にチェンジすることで、総合力を高めるとともに、効果的・効率的な運営をめざします。

これまでは...



- ・小規模図書館が散在し、個別に並列的な運営
- ・一見、地域密着に感じられるが、予算とマンパワーなど1館の体力は弱く分散され、効率性が悪い

これからは...



- ・市全体を一つの大きな図書館と捉え、中央館を拠点とし、他館への支援体制を確立
- ・市全体で職員の経験やノウハウを蓄積できる、効果的・効率的な事業展開を実現

6 . 空白地域に図書館 2 館を新設

図書館サービスの空白地域の公共施設を拠点に、図書館 2 館を新設します。

北部の新図書館

なんらかの公共スペースを確保する際に、ライブラリーを備えて図書館サービスを提供します



小野原の新図書館

小野原西と小野原東に、それぞれコンパクトな公共施設を作る予定であり、そのうち小野原西の施設で図書館サービスを提供します

蔵書の規模はどれくらい？

施設のスペースが許す最大規模の蔵書

- 図書館サービスのためだけに新たな建物を作ることはできませんが、サービス拠点となる施設のスペースに合わせ、最大限の蔵書を備えます
- スペースの制約で蔵書数が多少限られてしまう場合も、年に1度の「本の大移動」で蔵書を大幅に入れ替え、常に鮮度を保ちます

貸出などのサービスは？

市内のほかの図書館と同じサービス

- 貸出、返却、予約、リクエストなど、市内の既存館と同じサービスを提供します
- 高度な調べものなども、中央図書館の司書がご相談に乗ります(ほかの図書館と同じです)

7 . 書籍購入費を倍増

図書館サービスの根幹とも言うべき「本を提供する」サービスを充実するため、書籍購入費を一気に2倍にします。

書籍購入費 現在 31,100千円 / 年



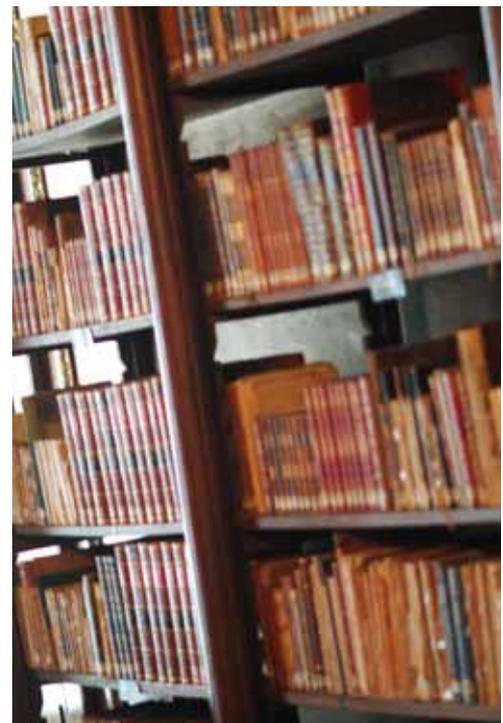
62,200千円 / 年

● 新刊書や人気図書の購入量アップ

長い予約待ちの新刊書や人気図書。
購入冊数を増やして、予約待ち日数を減らします。

● 回転率の落ちた書籍は売却

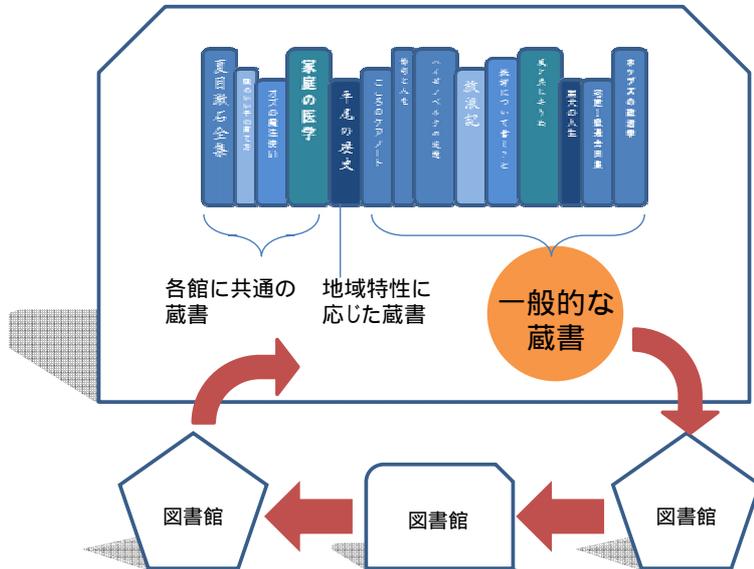
ムダな蔵書を増やさないう、回転率の落ちた本は
他自治体の図書館などに売り払ったり、バーゲンブック
コーナーを常設して市民が買えるようにします。



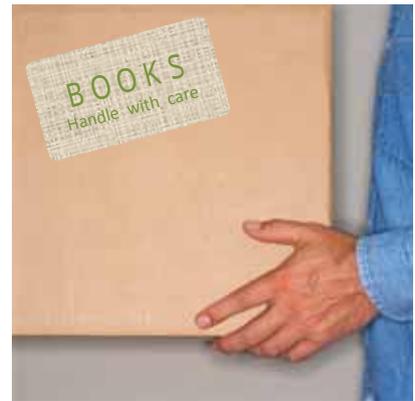
8 . 蔵書の流動性を大幅アップ

限られた蔵書をできるだけ多くの利用者に手に取ってほしい!との思いから、年に一度、大幅な蔵書のローテーションを実施します。

各館に共通して置いている蔵書や、地域特性に応じた蔵書を除き、一般的な蔵書を8館でローテーションします。



スペースの制約で蔵書数が少なくても、数多くの本に触れることができます。



9 . インターネット接続環境の整備

図書館で調べものしながら、同時にインターネットからも情報収集したいという利用者ニーズに応え、無線LAN拠点を整備するとともに、iPad、ネットブックなどの館内貸出をします。

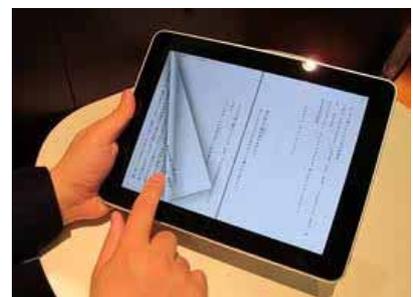
- ご自分のパソコンの持ち込みができます

使い慣れたノートパソコンなどで、作業効率をアップ。機動的な情報収集が可能です。

- iPadやネットブックなどを借りて使えます

パソコンを持ち込まなくても、iPadやネットブックを借りて、館内で使うことができます。

家ではインターネット閲覧をしないかたでも、気軽にネットからの情報収集を体験できます。



10. 貸出がよりスピーディに

ICタグを導入し、貸出作業をスピードアップします。
また、利用者が自分で貸出処理をする「セルフ貸出」も簡単操作。書名を見られずに借りられます。



- 一気に読み取り！貸出がスピードアップ
何冊も借りるとき、処理にかかる時間が大幅に短縮されます。
- セルフ貸出も簡単
導入済みの他市の図書館によっては、簡単操作が好評で利用者の約9割が利用されています。
- 安心プライバシー
書名を見られることなく気軽に借りられるので、プライバシーが守られ安心です。



11. 人員体制の効率化

市民サービスを低下させずに人員体制を効率化するため、次のような方法を組み合わせます。

対人サービスへの特化

1 バックオフィス作業の集約

- 職員がカウンターからフロアへ出て、身近な対人サービスにシフト
- バックオフィスでの作業を集約して効率化

・予算事務、統計作業などの庶務
・データ分析、書籍選定
・購入書籍の発注・受入・配本準備
・予約処理、リクエスト対応
・展示イベントなどの企画
・時間のかかるレファレンス など

2 パートタイムスタッフの活用

- 配架や配本準備など、一日のうち一時的に忙しくなる時間帯は、短時間のパートタイムスタッフを活用

3 組織構成・人員配置の変更

- 各館に館長を置いている現体制を改め、1人の館長が全図書館を統括し、効率的に運営

ICタグシステムの導入と活用

4 貸出・返却・蔵書管理の省力化

- 1回に10冊ほど読みとれるため、バーコードと比べて貸出・返却業務が大きく省力化
- 「セルフ貸出」の利用で、貸出にかかる業務量を大幅に減少
- 定期的な蔵書点検にかかる手間と時間を大幅に短縮

5 出口ゲートの設置

- 貸出処理の終わっていない書籍を持っていると、ゲートでアラームが鳴るため、スタッフによる監視が不要

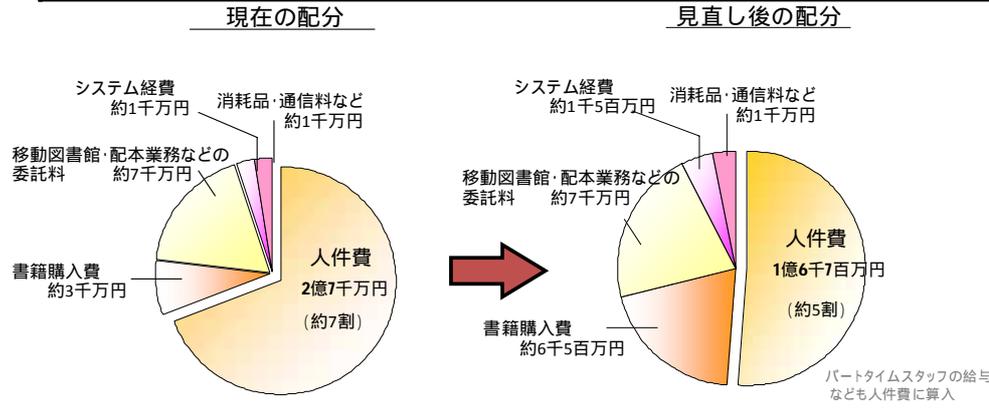
現在、年間2~3千冊の書籍が所在不明になっています。



1 2 . 効果予測

人員体制の効率化によって縮減した人件費と、効率化のための経費（ICタグなど）およびサービス充実のために必要な経費を比較すると、以下ようになります。

項目	効果額
① 縮減する人件費 人員数を約3/4に縮減	約1億3百万円
② 効率化のための経費 ・ICタグ導入による管理経費の増加分 ・パートタイムスタッフの給与	約8百万円
③ サービス充実のための経費 ・新図書館2か所の運営経費 ・書籍購入費倍増 ・本の大移動スタッフ ・無線LAN回線使用料、プロバイダ料など	約41百万円
差引効果額 - (+)	約54百万円



1 3 . 検討の経過

